



Art Meets Care

アートミーツケア

volume 10 / 2019

CONTENTS

[論文] P01-P17

幼児の造形活動における「もの」の役割と意味について： 保育園での造形活動とエピソード記述からの考察

笠原 広一(東京学芸大学 教育学部 准教授)
真木 千壽子(学芸の森保育園 園長)
小室 明久(東京学芸大学 個人研究員)
東南 さゆり(渋谷区立本町幼稚園 教諭)

[論文] P18-P33

笑いを通じた高齢者の生きがいづくりについての考察： 大道芸セミナーを事例として

田久 朋寛(大道芸人)

[実践報告] P34-P52

認知症高齢者のコミュニケーションを促進する： 作品展示デザインの実践的研究

塚本 万里(株式会社ムラヤマ)

[実践報告] P53-P68

「私」を求めて：シニア劇団星組の稽古場から

細見 佳代(NPO 法人劇研シニア劇団「星組」担当講師)

[実践報告] P69-P90

災害後社会における「アートプロジェクト」の可能性： タイ・プーケットを事例として

信藤 博之(大阪市立大学 都市文化研究センター)

[実践報告] P91-P100

「自信とうぬぼれとドパミン」をダンスで：パーキンソン病患者を 対象としたダンス活動(PDダンス)に関する実践報告

古賀 弥生(九州産業大学地域共創学部地域づくり学科 教授、アートサポートふくおか 代表)

[実践報告]P101-P111

既存の仏教施設を利用しての場づくり： 「真宗本廟子ども奉仕団」を通しての考察

羽賀 文佳(真宗大谷派僧侶／滋賀県長浜市中学校美術講師)

[実践報告]P112-P125

表現活動を通じた関わりの変化： 特別支援学級における美術科の授業実践から

竹 美咲(東京学芸大学 特別支援教育特別専攻科)

小室 明久(東京学芸大学 個人研究員)

[研究ノート]P126-P142

生活習慣病予防教材の開発に関わる芸術と 医療の連携についての考察

村上 史明(筑波大学芸術系)

鈴木 康裕(筑波大学附属病院リハビリテーション部 理学療法士)

日浅 健太(筑波大学附属病院リハビリテーション部 作業療法士)

上村 忠正(湖南病院リハビリテーション部 理学療法士)

[研究ノート]P143-P157

アートプロジェクトが捉えなおす支援と関係性： ダンスの感性が取り上げる身体の考察から

小泉 朝未(大阪大学大学院 研究科 博士後期課程)

[研究ノート]P158-P171

「夜」に入れないかなしみを見出すこと： イメージを通じた当事者研究の可能性を考える

水谷 みつる(こまば当事者研究会)

[研究ノート]P172-P180

病気イベントにおける、「社会の縮図」の表現と「ゆるさ」による つながり:当事者と非当事者の共同と接続の観点から

杉本 洋(新潟医療福祉大学看護学部看護学科)

発行:2019年3月31日

編者:アートミーツケア学会

発行所:アートミーツケア学会 〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4 一般財団法人たんぼの家内

TEL:0742-43-7055 FAX:0742-49-5501 URL:<http://artmeetscare.org/> E-MAIL:art-care@popo.or.jp